

総務常任委員会に付託された事件について、審査した結果を御報告いたします。

認定第1号 令和元年度岩国市一般会計歳入歳出決算の認定について

本件のうち、本委員会所管分は、慎重審査の結果、認定すべきものと決しました。

認定第2号 令和元年度岩国市土地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について

本件は、慎重審査の結果、認定すべきものと決しました。

議案第76号 令和2年度岩国市一般会計補正予算（第3号）

本議案のうち、本委員会所管分は、慎重審査の結果、原案妥当と認め可決すべきものと決しました。

議案第86号 岩国市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

議案第91号 装束ポンプ場機械設備工事請負契約の締結について

議案第92号 東小中学校プール・部室棟新築工事請負契約の締結について

議案第93号 GIGAスクール用端末（iPad）の買入れについて

議案第94号 市道上駄床1号線災害復旧工事（2工区）請負契約の一部変更について

以上5議案は、慎重審査の結果、原案妥当と認め可決すべきものと決しました。

それでは、審査の状況について、御報告いたします。

認定第1号 令和元年度岩国市一般会計歳入歳出決算の認定についてのうち、本委員会所管分の審査におきまして、総務費の総務管理費の男女共同参画推進費のワーク・ライフ・バランス推進費に関し、委員中から、事業内容について質疑があり、当局から、「女性が仕事と家事・育児を両立することができるようにするとともに、男性も仕事のみでなく家事・育児等に参加できるようにすることを目的とし、出前講座の開催や、啓発のリーフレットの作成・配布を行うことが主な事業である」との答弁がありました。

これを受けて、委員中から、「取り組み内容は理解したが、まずは市役所において実践することが重要であると考え。市職員のワーク・ライフ・バランスの推進についてはどのように考えているのか」との質疑があり、当局から、「子育てしやすい環境を整備すること、水曜日をノー残業デーとすること、定時退庁を促し、原則10時以降の時間外勤務を禁止することなど、これまでも行ってきており、今後も、全庁的な取り組みとして進めてまいりたい」との答弁がありました。

続いて、企画費の行政経営改革推進費に関し、委員中から、市民課窓口業務調査分析業務委託の内容と調査分析の結果について質疑があり、当局から、「市民課の窓口業務の中で、民間委託が可能なものがあるかを検討するため、現状の調査・分析、委託可能な範囲の提案等を業者に委託し、調査を行った。調査対象としては、各種証明書等に係る事務、印鑑登録に係る業務、住民異動に係る業務、郵送業務に係る業務、戸籍異動に係る業務であり、調査の結果、市民課の全業務における裁量的判断の決定、検認業務、住基ネットの取り扱い以外は委託可能とのことであった」との答弁がありました。

これを受けて、委員中から、「ほとんどの業務が委託可能とのことであるが、市民課の窓口業務は経験が必要な面があり、また、個人情報扱う部署でもある。このような部署の業務を民間に委託することについて、どのように考えているのか」との質疑があり、当局から、「窓口業務の民間委託については、行政経営改革プランに基づいて推進しているものであるが、市民課の窓口業務の全てを民間に委託するということではなく、どのような業務が民間に委託することが可能なのか、調査結果を踏まえ、今後も、市民サービスの

向上という点を重視し、調査・研究しながら、できるところから進めてまいりたい」との答弁がありました。

続いて、市民協働推進費の田舎暮らし促進事業に関し、委員中から、いわくにふるさとワーキングホリデー事業の実績について質疑があり、当局から、「令和元年度は10人の参加があり、受け入れ先は、いわくにバス株式会社に6人、由宇潮風公園に1人、美川開発株式会社に2人、ピュアライン錦に1人であった」との答弁がありました。

これを受けて、委員中から、「この事業の目的は、関係人口をふやし、行く行くは移住につなげたいということだと思うが、参加者からはどのような感想があったのか。また、この事業の今後の方針はどのようになっているのか」との質疑があり、当局から、「参加者からは、現地を実際に体験することで岩国を知ることができ、とてもよかったという感想もあったことから、今後も継続して事業を実施してまいりたいと考えている」との答弁がありました。

本件のうち、本委員会所管分につきましては、討論において、一部委員から、「本市においては、基地に依存した財政運営が行われていること、また、航空博物館の建設については反対であることなどから、本決算認定には反対する」との意見がありましたので、挙手により採決いたしました結果、賛成多数で認定すべきものと決しました。

なお、そのほかの案件につきましては、特に申し上げるべきことはございません。

以上で、総務常任委員会の審査報告を終わります。